

# キャベツ作に畝内帯状攪拌施用機をもちいれば根こぶ病防除 薬剤施用量を低減できる

## 研究のねらい

環境保全が叫ばれている昨今、化学合成農薬の使用量を削減する手法の開発は重要である。アブラナ科野菜の生産を左右する最も重要な土壌病害である根こぶ病防除剤の施用量を低減化する技術を開発する。

## 研究の成果

畝内帯状攪拌施用機は管理機等に取り付ける市販の畝立て機をベースとして若干改造したものである（図1）。

本機は、畝立てと同時に畝中央部の幅20cm×深さ20cmの範囲に根こぶ病の防除剤（フルスルファミド粉剤）を条に混合施用することができる（図2）。

本機を用いたキャベツ作における防除効果は慣行とほぼ同等であり、単位圃場面積当たりの薬剤施用量は1/2～1/3程度まで削減することができる（図3）。



図1 畝内帯状攪拌施用機

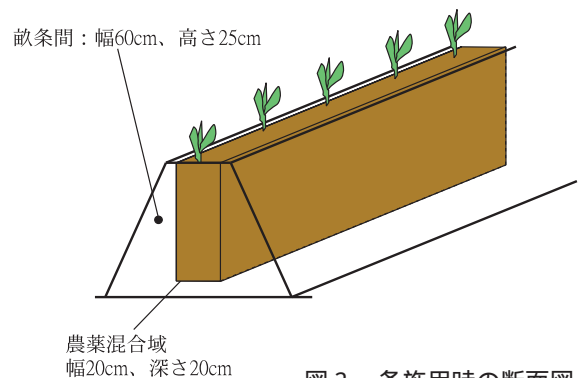


図2 条施用時の断面図

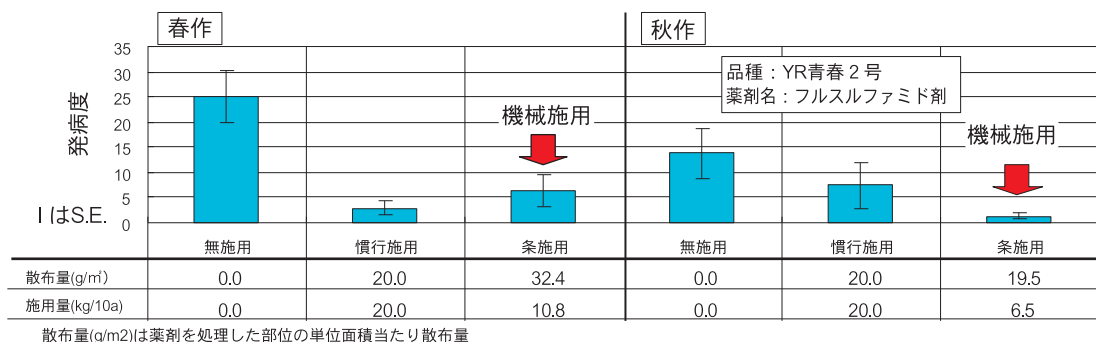


図3 機械施用（条施用）による根こぶ病の防除効果と薬剤施用の低減効果

## 成果の利活用

畝内帯状攪拌施用機は近い将来実用化する予定である。

フルスルファミド粉剤の防除効果は薬剤が土壌と十分に混じらないと得られないため、散布・混和時は土壌水分が多過ぎる時を避ける。

（問合せ先：野菜花き部 野菜花き作業技術研究室 019 - 641 - 7136）